

# JAハイナン

## 自己改革の成果について

【JAハイナン】の員会  
【JAハイナン】の員会

合いを通じて組合員の「思い・願い」を受  
じて話し合いを行うことで、自己改革の突  
き進められた。JAハイナンは、JAハイナン

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会

【JAハイナン】の員会



# 組合員の「思い・願い」を受け止め、自己改革に取り組みます。

JAハイナンは、自主・自立の協同組合として、「農家組合員の農業所得の向上」と「地域社会への適切なサービス提供」を柱に自己改革に取り組んでいます。

農業所得の向上については、JAの強みを生かし、生産部会員や「ほうせん館」出荷者等を重点に取り組んでいます。

また、地域に根ざした協同組合として、信用事業、共済事業、生活関連事業（ガソリンスタンド、葬祭事業等）など様々な事業や活動を行い、農家組合員、准組合員さらには地域の方々の暮らしに必要なサービスを提供しています。地域で様々なサービスを利用いただくことで、営農指導や農業関連施設への投資などが可能となり、農家組合員の農業所得の向上につながっています。

ここからは、これまでの当JAの取り組み状況についてご報告します。JAは、農業者を中心とした組合員が「力を合わせて」共通の願いをかなえるために組織した「協同組合」です。改革の取り組みは、組合員の皆様に評価いただいて初めて成果となります。JAハイナンは、話し合いを通じて組合員の「思い・願い」を受け止め、今後とも自己改革に取り組んでいきます。



©みんなのよい食プロジェクト

## 「思い・願い」を受け止める話し合いの経過

自己改革の取り組みにあたっては、話し合いを通じて組合員の「思い・願い」を受け止めてきました。今後も様々な機会を通じて話し合いを行うことで、自己改革の実践や成果の共有に努めます。

### ・生産部会との話し合い

日 程：平成30年6月～12月

参加者：花き委員5名・柑橘委員9名・苺委員8名  
レタス・サニーレタス委員9名・生産者組織代表者13名

意 見：生産コストの削減、耕作放棄地への対応、農産物の品質維持、新規就農者・労働力の確保、パッケージセンター建設の検討、農業機械の貸出

対 応：

- ・営農経済・茶業部門の機構改革を行い、業務の専門性を最大限に高め、事業をより効率的に行っています。
- ・営農助成事業により、新規作物の導入や規模拡大、農地集積や暗渠排水工事等に対する支援を行いました。

### ・ファーマーズマーケット出荷者協議会 通常総会

日 程：平成30年6月21日（木）

参加者：会員31名

意 見：店頭販売の積極的な開催、視察研修の実施、農産物の品質強化

対 応：

- ・管内農産物の特徴をアピールし、産地活性化に繋げていけるよう、複数の農産物が入った福袋を販売しました。
- ・高品質な農産物を出荷して頂けるよう、出荷者協議会で野菜づくりのDVDを購入し、無料貸出を始めました。
- ・出荷者参加によるイベントを開催しました。また、ほうせん館11周年に伴い、盛大にイベントを開催しました。
- ・産地間提携や東名高速道路SAへの出店、ほうせん館の野菜を取り扱う飲食店の増加に取り組みました。また、ギフト販売を強化しました。

### ・青壮年部と常勤役員の話し合い

日 程：平成31年4月5日（金）

参加者：部員25名

意 見：資材等の低価格化、販売力の強化、職員の育成

対 応：

- ・資材等の低価格化に引き続き取り組むとともに、提案型の商品開発などに努めます。
- ・加工向け野菜の取扱量を拡大しました。
- ・職員の研修受講、資格取得を推進し専門性を高めます。

・女性部と常勤役員の話し合い

日 程：平成30年 【南榛原地区】 8月8日（水）、【榛原地区】 9月3日（月）、  
【吉田地区】 9月19日（水）

参加者：部員51名

意 見：グループの新設、店舗再編成による活動への影響

対 応：

- ・自主的活動を継続的支援していくとともに、店舗再編成後も変わりなく活動できるよう、検討会を開催しました。

・営農経済・茶業部門の機構改革説明会

日 程：平成31年1月～2月

参加者：生産者組織 正・副代表者 17名

青壮年部・女性部・楽農部会 29名

榛原地区・吉田地区部農会長 30名

南榛原地区部農会長 37名

内 容：機構改革の概要、平成31年度の指揮命令系機構図について

・店舗利活用意見交換会

日 程：平成30年 【片浜支店】 8月21日（火）、【川尻支店】 8月27日（月）

【菅山支店】 8月28日（火）、【御前崎支店】 8月29日（水）

参加者：総代80名

内 容：施設の概要、各支店利活用の方法

・担い手経営体への訪問調査

日 程：平成30年4月～平成31年3月

訪問先：担い手経営体36件



生産部会との話し合い



営農経済・茶業部門の機構改革説明会

# 農家組合員の農業所得の向上

【これまでの取り組み】

## 「資材価格の低下へ JAハイナンPB肥料の普及」

### 取り組み内容

平成30年2月より、JA静岡経済連や肥料メーカーと協力し、芽出し肥、夏肥として多く利用していただいている苦土硫酸の内容を一部変更し、従来品より価格を下げ、生産者の皆様に提供しています。

### 組合員の声

- ・次年度も利用したい。
- ・資材価格の低下は嬉しい。

### 成果

生産資材のコスト削減  
利用者数：平成30年度656人



## 「耕作放棄地対策へ 農業経営事業の開始」

### 取り組み内容

平成29年度の準備を経て、平成30年7月より事業開始しました。担い手が不足している地域において、JAハイナン自らが茶園を管理することで、組合員の農業経営を補完し、耕作放棄地を有効活用します。

### 組合員の声

- ・手放そうと思っていた茶園を耕作放棄地にすることなく良かった。
- ・営農担当職員の技術習得に期待する。

### 成果

農地保全、栽培面積の維持につなげた。



## 「農産物買取強化で有利販売につなげる 直販課出荷協力会の設立」

### 取り組み内容

生産技術の向上と地域農業の振興を目的に、直販課出荷協力会を設立しました。流通コストの削減、より魅力的に映るパッケージの作成などで、生産者の所得向上を図っていきます。現在、大根切干と芋切干の2品目に関しては平成30年度から買取販売を開始しております。

### 組合員の声

- ・JAが買い取ってくれるので安心して生産できる。
- ・流通コストが削減されたため、手取りが増えた。

### 成果

管内農産物の出荷者増加と販路拡大につなげた。



## 「写真や図も豊富に収録 ルーラル電子図書館の活用」

### 取り組み内容

農作物の病害虫の写真をはじめとして豊富に情報等が収録されており、さまざまな場面で幅広くご活用いただけます。営農経済センターにタッチパネルを設置したほか、営農アドバイザーや営農技術員が使用しているタブレット端末でも見ることが出来ます。

### 組合員の声

- ・現地で迅速に対応してくれて助かる。
- ・営農経済センターで使用してみて便利に感じた。

### 成果

視覚的なアドバイスを提供し、生産者と職員が共有しながら対応ができた。



## 「組合員の経営基盤強化のために 営農支援助成事業」

### 取り組み内容

組合員の農業経営の改善・発展を支援することを目的として助成措置を実施しています。日々の農業経営や新たに始める複合経営のために必要な農業機械や資材代、耕作地の排水整備費用等を助成し、組合員の栽培管理の効率化と栽培環境の整備等を図ります。

### 組合員の声

- ・農業機械の導入により、栽培管理の負担が減った。
- ・初期投資が軽減され、栽培面積の拡大や新規作物を導入しやすくなった。

### 成果

経営規模拡大、新規作物栽培などに貢献した。  
利用件数：平成30年度179件（前年比：約10%増加）

## 地域社会へのサービス提供

【これまでの取り組み】

### 「地域とより密着して 1支店1協同活動の取り組み」

#### 取り組み内容

平成22年度から、組合員や地域の皆さまとの絆を深めるために行っている取り組みです。各事業所とその地域が協力して活動することで、地域の拠りどころとして親しまれ、地域に貢献できるJAとなることを目指しています。

#### 組合員（地域住民）の声

- ・子どもたちに地域の伝統やお茶の美味しい淹れ方を教えてもらえる。
- ・ボランティアの人数が増えて助かる。

#### 成果

地域の子どもたちを主とし、地域住民との交流が増えたことで、JAの事業理解度が増した。



### 「地域農業の活性化へ ハイナン農業塾の継続」

#### 取り組み内容

農業における課題を解消し、地域農業を活性化させることを目的に、平成28年度より「ハイナン農業塾」を開講しました。2期生20人は、講義や現地視察を行い、今後は栽培実習を計画しています。

#### 参加者の声

- ・基礎的な事から始めて、実践的な知識を高められた。
- ・1期生として受講してさらなる技術の習得をしたいと思います。

#### 成果

農業に対する理解と参加者の就農率が向上した。  
参加者数：平成30年度20名（前期比：25%増加）





## 「農家の方々の労働力を支援します」

### 取り組み内容

平成29年1月から無料職業紹介所を開設し、求人・求職の募集を行なっています。新たに県下JAグループと連携した求人サイトにも参加し、事業のPRを進めています。

### 求人者の声

- ・農業経営の規模拡大のため雇用をしたい。
- ・実際に働くことで農業のことを理解してもらいたい。

### 成果

求人（農家）13名、求職（働き手）2名、マッチング2件（茶、レタス）  
地域農業の振興のため、規模拡大希望の農家組合員に役立った。

**JAハイナン  
雇用斡旋事業  
無料職業紹介所**

【今後の取り組み】

## 「皆様の暮らしをフォローします」

### ～店舗再編成、営農経済・茶業部門の機構改革～

★店舗再編成について

#### 組合員・地域住民の声

- ・支店が遠くなっても、不便さを感じないようにしてほしい。

#### 今後の取り組みと成果目標

訪問回数の増加やより迅速な対応に努め、出向く体制を強化し、皆様に引き続き安心してご利用いただけるよう努めます。

★営農経済・茶業部門の機構改革について

#### 組合員・地域住民の声

- ・改革による更なる農業所得向上に期待します。

#### 今後の取り組みと成果目標

業務体制を整え、各担当の専門性を高め、より効率的に諸課題を解決できる職員の育成に努めます。管内の農業振興及び組合員の農業所得向上につなげられるよう、品目別チームの強化や肥料コストの削減などに積極的に取り組んでいきます。



## 新聞への掲載記事

当JAの自己改革の取り組みは、広報誌のほかマスコミを通じた情報発信にも努めています。これまでに新聞に掲載された内容を一部抜粋して紹介します。なお、「※」がついているものは次ページ以降に記事を掲載しています。

### 【掲載記事抜粋】

- ・平成30年4月10日（火） 日本農業新聞 茶専用肥料を販売 価格低減が実現（※）
  - ・平成30年4月26日（木） 日本農業新聞 管内茶業の理解を 若手職員手摘み体験 農家負担軽減も
  - ・平成30年5月18日（金） 静岡新聞 児童に特産切り花 牧之原、御前崎5小学校訪問 「優しい心育て」
  - ・平成30年5月31日（木） 中日新聞
  - ・平成30年6月1日（金） 日本農業新聞
- } 「かぶせ茶」でケーキ作り 榛原高生、文化祭で販売へ（※）
- ・平成30年9月18日（火） 日本農業新聞 放棄地対策へ茶園借り入れ 農業経営事業に着手（※）
  - ・平成30年11月14日（水） 日本農業新聞 ブランドレタス 「うまレタ。」確立へ 生育順調、初出荷（※）
  - ・平成31年1月10日（木） 静岡新聞・中日新聞
  - ・平成31年1月18日（金） 日本農業新聞
- } 牧之原市と協定 災害時の物資輸送円滑に（※）
- ・平成31年2月1日（金） 日本農業新聞 ファン育成へ闘茶会 小5生クイズも



【掲載記事】

■平成30年4月10日（火） 日本農業新聞 茶専用肥料を販売 価格低減が実現

JAハイナン 静岡ハイナン 茶専用肥料を販売 苦土硫酸から 全量切り替え 価格低減が実現

静岡県のJAハイナンは今シーズンから、従来品よりの割近く価格を下げたPB（プライベートブランド）の茶専用肥料「ハイナンマグ硫16」の販売を始めた。JA静岡経済連や肥料メーカーと連携し、全量切り替えるとの前提に予約を集め、価格低減につなげた。JAで扱っていた苦土硫酸を全量切り替え、銘柄集約を実現した。

苦土硫酸は茶農家が扱う化成肥料の中で最も扱う量が多い。芽出し用の肥料として、圃場（ほじよう）10ア当たり60〜80kgほど投入している。使用量が多く、農家から「もう少し安くならないか」との声が上がっていたため、同JA初のPB肥料として企画した。



JA独自の茶専用肥料を紹介する職員（静岡県牧之原市で）

開発した肥料は窒素16%、リン酸2%、苦土7%。施肥を指導するJAの営農指導員が構成をチェックし、管内の土壌農指導に生かせるよう効果的な使い方を共有した。

柄と位置付けて栽培指導にも採用。肥料の注文をとる前には指導員同士を集めた検討会も開き、営農指導に生かせるよう効果的な使い方を共有した。



袋には富士山を背景に広がる管内の茶畑の写真を載せた。商品名は「ハイナンマグ硫16」。今シーズンは1万2000袋（1袋20kg）を製造。JAは従来扱っていた苦土硫酸を全て同肥料に切り替えて普及を進める。

■平成30年6月1日（金） 日本農業新聞 「かぶせ茶」でケーキ作り 榛原高生、文化祭で販売へ

銘柄茶「望」で カップケーキ

静岡県JAハイナン管内の県立榛原高校家庭部が、ブランド茶「望」を使ったカップケーキを開発した。試行錯誤しながら香りや風味を生かした逸品に仕上げた。2日に同校の文化祭で販売する。

同校の家庭部員は27人。2015年まではクッキーを販売していたが、16年からカップケーキにも挑戦している。材料にはJAハイナンの被覆茶のブランド「静岡牧之原茶」。

静岡県立榛原高校家庭部

望（品種「つゆひかり」）を使用。茶の香りや風味を感じさせ、クッキーを作る際に出る卵白も有効に活用する調理法を模索。3月下旬から試作を重ね「フィナンシェ風カップケーキ」にアレンジした。

カップケーキ担当を務める杉本結唯さんは「昨年は焦げて、販売分が少なくなりました。多くの人に『望』の良さを知ってもらえるように」と話している。

（静岡・ハイナン）



JAハイナンの「望」を使ったカップケーキを持つ家庭部員

「今年は焼き方を工夫した」と出来栄えに自信をのぞかせる。

部長の仲田のあさんは「文化祭で地元の商品を紹介できる良い機会」と笑顔。JA営農企画課の藤田健一郎課長は「高校生が地域農業を応援してくれていることがうれしい」と話す。

カップケーキの販売は午前10時から。1が2個入り（100円）を1日限定で約120袋の販売を予定している。

平成30年9月18日(火) 日本農業新聞

放棄地対策へ茶園借り入れ 農業経営事業に着手

## JAハイナ 放棄地対策へ茶園借り入れ 農業経営事業に着手

【静岡・ハイナ】JAハイナは、県の基幹作物である茶の耕作放棄地対策として県内で初めて、JAによる農業経営事業に今年度から乗り出した。地域農家13人から1・8畝の茶園を借り入れて、7月から8月の台切り番茶を、最新の大型コンテナ乗用摘採機でJA職員が収穫。3・4畝の生葉を出荷した。3年後までに耕作放棄地や担い手のいない農地3・5畝の管理を目指している。



管理茶園の葉を摘採するJAハイナの通常職員

JA直営の茶工場に生葉を出荷する生産者を対象に調査したところ、離農や栽培面積の減少で、今後生葉出荷量が大幅に減少する見通しが判明。茶工場の経営や茶産地の維持に大きな影響を与えかねないとして、JAが

組合員の農業経営を補完し耕作放棄地の解消を図るとともに、生産量を確保することで直営工場の収益性を高める。出荷者の所得向上にもつなげる。JA自己改革の実践項目に掲げている「地域農業を守る体制整備と、耕作放棄地や茶販換

新規作物の研究をする。営農企画課の藤田健一郎課長は「初年度は担当職員が適切に栽培管理できるように運営体制を確立したい」とする。将来は、管内農産物のブランド化を援う、新たな農業経営スタイルの確立と作目の検討、担い手育成も視野に入れて取り組む。

するため、今年5月の通常総代会で決定した。昨年、試験茶園を設置し、JA職員が実際に施肥、防除、整枝など管理作業を行ってきた。当面は直営茶工場へ生葉を出荷する生産者の茶園管理と、耕作放棄地や茶販換

平成30年11月14日(水) 日本農業新聞

ブランドレタス 「うまレタ。」確立へ 生育順調、初出荷

## JAハイナ ブランドレタス 生育順調、初出荷

# 「うまレタ。」確立へ

【静岡・ハイナ】JAハイナは11月上旬、吉田町の吉田管農経済センター集出荷場で、2018年度産レタスの出荷を始めた。今年産は定植遅れがあったが、雨と暖冬で玉の生育は順調で肥大が進んでいる。10月の台風24号による影響も少なく、出荷量が確保できると予想されている。



レタスを検品する職員

初荷は2人の出荷者が原青果へ出荷し、出荷量合わせて2Lサイズ55斤(1斤15玉)を出荷。ピク時で1日当たり約5000玉が出荷される。11月中旬ごろまで東京、134人が145畝でJA静岡中央会の支援を受

「ハイナサラ女王プロジェクト」を掲げ活動強化に乗りだしている。また、県レタス協議会は静岡県内のレタスのブランドとして「うまレタ。」と命名し、知名度アップを狙う。JAレタス担当の竹澤真生さんは「本年度は各産地ともに潤沢な出荷が見込まれるため、各地区の出荷量の把握と、より適正な出荷物の検査を行うべく、静岡レタスのブランド『うまレタ。』の確立を目指し、生産者の所得向上に努める」と話した。

### 認知度向上へ 都内で懇談

県協議会と経済連

【静岡・経済連】県レタス協議会とJA静岡経済連は10月下旬、都内で2018年度産静岡レタスの表記を「うまレタ。」に統一し、認知度アップを図る。ポスターやのぼりなどの宣伝資材も活用し、「美味(うま)い」「新鮮」「安全安心」な静岡レタスとして、ブランド構築に向け情報を発信していく考えだ。

会議では、産地から台風後は順調に生育が進んでいることが報告され、実需者からは「静岡レタスは鮮度・品質が良い。安定供給をお願いします」との声が聞かれた。県内産統一ブランドとして立ち上げた静岡レタス「うまレタ。」の取組みについて紹介した。草刈りなど管理し、2018年収穫したのも、職員が価格を決め、92袋(1袋2玉)を販売した。他、会場に訪れた組合員と栽培の大変さや楽しさを語り合っていた。職員は「植えた苗の姿が日々変化する姿がうれしかった。研修で農家の苦労を知った」と話していた。



■平成31年1月18日（金） 日本農業新聞 牧之原市と協定 災害時の物資輸送円滑に

【静岡・ハイナン】JAハイナンは1月上旬、災害時の対応を円滑に行うために、牧之原市と災

害時の協力に関する協定を結んだ。市内で地震などの大規模災害が発生した際に、市の要請に応じ

## 災害協定を締結 静岡・JAハイナンと 牧之原市



協定を締結する大石組合長と杉本市長

て被災者に農産物や燃料

などの災害支援物資を提供する他、JAの集出荷場などを災害支援物資の輸送拠点や集積所として活用する。

牧之原市役所で行われた締結式で、大石直司組合長は「この協定をきっかけに、JAが目指す地域との共生に関する取り組みをさらに広げていきたい」と話した。

杉本基久雄市長は「JAの集出荷場にはフォークリフトや資材があり、荷さばきに適している。防災に関する取り組みを地域一体となって進めていければ」と協定締結の意義を強調し、感謝を述べた。